

慶藏院寺報

公孫樹

2025年2月発行

第157号

浄土宗慶藏院

伊勢市小俣町元町1211

TEL 0596(22)3726



山村御流の生け花 おもと 画 山寄淑子

慶藏院涅槃図の由来

二月九日は涅槃会。本堂に涅槃図が掲げられました。お釈迦様は「頭北西面」北枕に、お顔を西に向けて横になっておられます。本堂建立以来の鍵釘が残っており、ここに今年も、涅槃図が掛けられたのです。

この涅槃図、昭和五十八年からの本堂改修中、内陣の天井裏から、箱に入り、ネズミの巣状態になって発見され、六十二年に修復完成されたものです。いつ頃に天井裏に入れられ、忘れ去られていたものなのか…。涅槃図の裏には、明治二十二年と二十三年の位牌紙が貼りついていますから、それ以降と考えられます。廃仏毀釈との関係があるのかもしれませんが。

涅槃図に書かれてある内容を読むと、「慶藏院には涅槃図というものがなかったが、文化三年、十七世性善上人の在世において、発願され、二十年の歳月を経て、文政八年に完成。同九年に法要が行われ、私たちが積み重ねてきた罪業を除き去り、臨終の時には、心静かに、阿弥陀様のお迎えをいただいて、必ず極楽浄土に生まれさせて下さい」と願いました」とあります。

この涅槃図を模写した画工は、檀中の新出、森安五良。表具師は田丸の大仏師、菊之進。寄付者の名前として野呂久兵衛、野呂隠居頼女、野呂次右衛門、当任職の名が記されています。

ここで改めて気がついたことがありました。「勢州度会郡下小俣村 神寶山慶藏教院」と記載されているではありませんか。慶藏院ではなく慶藏教院と「教」の字が入っているのです。以前、過去帳の中に「慶藏院一行寺」を見つけた時の驚きと同じ衝撃を受けました。一行寺も慶藏教院も現在、使われていませんが、先人が残してくれた名前の由来も大切にしていきたいものだと感じています。

2月の行事予定

5日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 本堂にて 午後7時～
9日(日)	涅槃会	午後1時～
12日(水)	羊毛フェルト教室 講師 monmo先生 落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後1時～3時 本堂にて 「ペンギン」参加費 1500円 午後7時～ 一会館にて
19日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 本堂にて 参加費 500円
13日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費1回 1000円
26日(水)	地藏講・地藏堂御開帳	午後1時半～ 地藏堂にて
25日(火)	戦没者慰霊・平和の鐘	朝の勤行にて、 鐘撞きは午前8時頃
14日・28日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生	午後7時～子ども茶道教室 午後7時半～大人茶道教室 参加費 大人 500円 一会館にて
8日・22日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円



慶蔵院 知識 叢書

21

いろは(伊呂波)歌のこと

ひらがな四十七文字をすべて一回ずつ重複なしに使って作った七五調の歌「いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うぬのおくやま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせす」漢字にすると「色は匂へど 散りぬるを 我が世誰ぞ 常ならむ 有為の奥山今日越えて 浅き夢みし 酔いもせす」となります。いつごろだれが作ったかは不明ですが、昔は子供が仮名を手習いする手本として使われていました。

この歌は、ブツダ臨終の説法「涅槃経」の雪山偈、「諸行無常」―色は匂へと散りぬるを・「是生滅法」―我が世誰ぞ常ならむ・「生滅滅已」―有為の奥山今日越えて・「寂滅為楽」―浅き夢見し酔ひもせず―を基に作られています。

花は咲き誇っても、いつかは散ってしまいます。ずっと生き続けられることを求める、苦しみと悩みの人生を乗り越え、はかない夢から覚め、悟りの世界に入りましょう。

後にスイス大統領となるエメ・アンペール(一八一九年〜一九〇〇年)は明治維新前の日本に来て、母国と違って女の子も一緒に読み書きを習っており、十歳の子供たちが初めに習うのが「いろは歌」だったのに驚いたそうです。こんな小さい頃から世の無情と死を教え、身勝手な夢に酔うこともなく、心安らかにあれと諭された心が、日本人の心に根付いていると感心したそうです。今の日本人はどうでしょうか・・・。

(文 麻畑公生)

住職の健康回復への道のり(36)

昨年の体重は六十四キロから六十五キロの間を行き来してきた。正月に増えたもので、ついに一年間、一昨年の六十三キロに戻すことができなかった。

ところが今年の正月、六十六キロを超えてしまった。今、五と六とを行き来している状態。体の調子は悪くないし、数値も問題ないのだが、健康のバロメーターとされる上腹部が固くて、なかなか柔らかくなってこないことの問題が指摘されている

考えられることは、食べ過ぎ、睡眠不足、疲れの蓄積、背筋の固さ、神経…と上げてみてわからない。また原点にもどって、よく噛み、間食はさけ、適量に食べることから進もう。

涅槃会 二月九日(日)

休憩には甘酒をじゅわ!

日程 午後一時 法要
一時半 法話

当山住職



二時半 休憩
二時四十五分 法話
四時半終了予定

説教師

大阪府 茨木市 乗雲寺住職

安井 隆 同上人

昭和つれづれ物語 ②

私の思い出は 昭和25年小学校一年生の時の担任の先生が参宮線列車事故で昭和39年ごろ(高茶屋一六軒)新聞に載っていたので先生の家にお見舞いに行きました。(伊勢市黒瀬町)先生は軽傷でした。10年以上たっていました。初めて教師になった年なので志津子さんのことは覚えていけると言ってくれました。

その先生は雪が降ると学校の帰り、このゲタをはいていきなと言ってくれました。(私はわらぞうり)

私の思い出の風景は宮川橋の手前の土手です。大根のはさが一面にありました。その土手に大根を売りに行きます。寒い朝、親と荷車に大根を積み売りに行きました。そのお金で手袋、靴下など買ってもらいます。勉強よりの家の手伝いが主でした。

(文 中瀬志津子)



落語会「いちご亭」 二月十二日(水) 午後七時

慶蔵院「一会館」にて

無料です

出演 法話 慶蔵院住職
落語 南遊亭栄歌 安楽亭東風

安楽亭小東風(小学二年晋之介君)の紙切り、好評です。お楽しみに!!

六十年も前の話です。小学校五・六年生の担任の先生、「飲みすぎたな…」と子供でもわかる状態で教室に現れました。そんな時は「宿直室にいるから、時間割通り、学習係が前に出て授業を進めるように…」と教室を出ていきました。

私は中西さんという女の子と国語の学習係をしていました。

その日も先生は宿直室、中西さんと前に出て、「教科書、何ページのわからない漢字を言ってください」…。黒板に書きだして、「読める人…」、「意味は…」などと授業を進めていました。

この日、祖父は、音楽の笛を届けに学校まで来て、教室の様子を見ると、そのまま帰ったようです。

学校から帰ると祖父に呼ばれました。「じいちゃんは今、学校に行った。先生があらんのに、静かに、国語の勉強をしとった自分です。あれがほんとの勉強や。笛は忘れるな…」と。

担任からも祖父からも大切なことを教えてもらいました。

(文 格也)



若水を汲んで健やか雑煮餅

奥田 悦生

(「知恩」誌二月号「柳檀」に掲載)



念仏は祈り
 大きな声でも小さな声でも
 称えよう念仏と
 一歩前へすすめるから。
 南無マミダブツ
 今の自分が変わってくる
 とみが往生と云うこと
 まっすぐすすめる
 念仏に立往生はない。
 さらに念仏に込めねばならない
 戦争をしてはならないと
 憲法9条を壊すなと。
 格也

今井英一さんの個展終了後、届けていただいた作品群の中に、「写経の心境」と題して書かれた習作作品があった。

写経を始めようとした矢先、三つの出会いがあったという。一つは、「坂村真民」さんの詩墨展。二つは、「矢野きよみ」さんが書かせた震災の子供の書。三つは、榊莫山さんの書画展。「わずかの期間にすごい作品にぐわして、涙がこぼれた」とある。

退職されて伊勢型紙と出会い、作品づくりに没頭されだしたころではなかったか…。写経に取り組むときの心の在り方について、自問自答しつつ、そのころを表現する字体を創造しているつばやき。その気迫に圧倒されてしまう。今井さんのたどり着いた境地の言葉です。

- 一、
 心で書く…絵の達人も、書の達人もいらん。俺の心があるんだ。誰もが持っているもの、それがあれば、誰もがすてきな絵が、すてきな字が書けるんだ。
- 二、
 無心に書く…えらそうなこと言っても実際は、字の大きさ、形、位置、絵の構図など、気にしている。「こんな写経でええんか」「こんな字、人に見せられるか」人の目気にしとるやんか。だめだめ、無心に書きたい。
- 三、
 ゆっくり書いて…「書きゃええ」と思って毎晩一枚ずつ書き始めたのだが、書きゃかくほどまぶくなる。こりゃいかん。莫山さんの写経のとりこになったのだから、莫山さんの字を写すことからはじめよう。時間どれだけかかっても板に掘ろう。今「こころをこめて莫山さんの写経を版画にしています。これからです。」